

奈良県教育へのメッセージ ～奈良県教育懇談会からのメッセージ～

1. はじめに

奈良県教育懇談会（以下、教育懇談会）は、平成12年度より奈良県にふさわしい教育の在り方を積極的に考えるべきであるとの視点に立ち、各界各層の有識者、公募委員等により幅広い視野から奈良県教育について検討し、教育改革のための新たな提言やアピールを行ってきました。しかし、設置から8年が経過し、教育改革について一定の成果がみられたことから、この度の第4期の提言をまとめた平成20年3月をひとつの区切りとし、一旦閉会することとなりました。

教育懇談会ではこの節目にあたり、これまでの議論、提言を踏まえ、奈良県教育の現状を見わたして、メッセージを発信したいと考えます。

2. これまでの提言と奈良県教育課題について

平成13年11月から、平成20年3月までに教育委員会に提出した提言、アピールは次のとおりです。

平成13年11月「教育改革のための中間提言」

平成15年 3月「教育改革のための新たな提言」

「教育改革のための討議の整理」

「県民の皆様へ 『奈良県の教育改革はどのように動き出しています』」

平成15年10月「教育改革のための新たな提言 - 子どもの体力向上と健康増進 - 」

平成16年 7月「奈良県教育懇談会からのアピール

- 望ましい勤労観・職業観の育成に向けて - 」

平成18年 1月「教育改革のための新たな提言 - 子どもの社会性の育成に向けて - 」

平成20年 3月「教育改革のための新たな提言 - 小中一貫教育等の推進 - 」

教育懇談会は、委員の様々な立場から、いわば県民の目線から、奈良県の教育についての提言等を行ってきました。これらの提言等の内容は、多くの分野にわたっていますが、子どもの学力向上、子どもの体力向上、子どもの社会性の向上、学校の経営改善や教員の資質向上

家庭教育の充実と県民参加の教育について等に、大別されます（教育懇談会の行ってきた提言実現のための取組の概要については、別紙資料のとおり）。これらの視点から奈良県の現状と課題について簡単に述べさせていただきます。

子どもの学力向上について

教育懇談会では平成13年11月に、子どもたちの学力状況をできるだけ正確に把握するため、県内一斉学力状況調査の実施と、基礎・基本の徹底、習熟度別指導の推進等を提言しました。

それを受け、県教育委員会では、平成16年度、17年度に県独自で学習到達度調査を実施、また、平成19年度には全国レベルで全国学力・学習状況調査が行われました。全国学力・学習状況調査の結果では、奈良県は、小・中学校とも国語、算数・数学の平均正答率は、全国平均を上回りました。これは、近畿では奈良県だけであり、調査結果については概ね良好であると考えます。ただ、全国的な傾向でもあります。小・中学校ともに「活用」に関する問題の正答率が「知識」に関する問題に比べて低い結果が出ています。また、学習状況では、奈良県の子どもは学校外での学習時間は全国平均に比べかなり長いのですが、これには、塾や家庭教師による学習時間も含まれており、単純に家庭学習の習慣が確立しているとは言えないようです。また、「国語、算数・数学の勉強は好きですか」の質問については、「好き」「どちらかといえば好き」と肯定的に答えた児童生徒の割合は全国平均より低いという結果も出ています。

なお、習熟度別指導の導入は、あまり進んでいるとは言えません。また、指導が実施されている学校においても、十分に効果のある方法で実施されているか慎重な検証が必要と考えます。具体的な指導方法の工夫と併せて、習熟度別指導の導入を推進されることを望みます。

今後も、子どもの学習意欲を高め、自主的な学習習慣の確立を目指す指導をお願いしたいと考えます。

子どもの体力向上について

体力テストの完全実施、1校1運動の推進等の提言を行いました。平成19年度では、小・中

学校で7割前後、県立高校の9割で体力テストが実施されています(テストの一部分実施を含む)。ただ、近年の体力テストの結果を見ると、奈良県の子どもたちの体力・運動能力は、「握力」「反復横跳び」「長座体前屈」「50m走」「立ち幅跳び」など、ほとんどの種目で全国平均を下回っています。また、体力・運動能力が全体として低下しているだけでなく、積極的に運動する子どもとそうでない子どもの二極に大きく分かれていることも心配です。平成15年度の調査では、小学校5年生の約17%が毎日の運動時間が30分未満となっており、平成19年度でもその比率はあまり改善されていません。小学校5年生の男子で、毎日の運動時間が2時間以上の子と30分未満の子の50m走のタイムを比べると平均で1秒近い差があります。また、起床時間、朝食などの生活習慣等でも個人差が大きくなっているのではないかと危惧します。2009年には、奈良県を中心として全国高校総体(インターハイ)が開催される予定ですが、開催を契機に子どもたちの体力・運動能力の向上に繋がる施策や、スポーツに親しむことのできる環境の整備を一層進めていただきたいと思います。健康、体力・運動能力の向上は、すぐに結果の出るものではないので、長期的で継続した取組が必要だと考えます。

子どもの社会性の向上について

子どもが望ましい社会的習慣を身につけ、自立した社会人に育っていくために、体験学習を重視すること等によって望ましい勤労観・職業観や社会性の育成についても提言を行いました。現在、規範意識を育てる法教育や教育相談体制の充実等の取組が実施されていますが、学校教育関係者だけではなく、家庭、地域、専門家(法律関係者や警察関係者等)との一層の連携を望みます。

また、全国学力・学習状況調査によれば、本県の子どもたちは、「自分によいところがあるか」という質問でも全国平均より低い値が出ており、職場体験やインターンシップ、ボランティア活動等の様々な社会体験活動の充実により、自尊意識を高める取組を進めていただきたいと思います。なお、子どもの規範意識や社会性の向上を考えると、奈良県のもっている豊かな文化的、宗教的土壌を活かすことも重要だと考えます。

学校の経営改善や教員の資質向上について

学校経営の改善においては、まず、いわゆる学校の閉鎖性を打破することの必要性を強く意識し提言を行いました。いわゆる外部の目の力による学校の改革促進と、情報開示による学校外の力との協働体制の確立が必要と考えたからです。具体的には、学校の教育目標、教育計画の達成状況についての自己評価とその結果の公表、外部評価の導入、授業の公開等について提言を行いました。現在、授業公開は、県内の小・中・県立学校のすべてで実施されています。教育目標や年間計画の公表についても、9割近くの学校で実施されるようになりましたが、評価結果の公表は全体の6割前後に留まっており、とても十分とは言えません。学校教育課のアドバイザーチームが各学校を訪問するなどの奈良県独自の取組が実施されたことは、学校の経営改善の助けになっていると考えますが、今後更なる取り組みを求めます。

教員の資質向上に関わっては、教員研修の拡充とともに、採用試験の改善、新たな教員の人事評価システムの導入や指導力不足教員の判定システム、優秀教職員の表彰等の施策が実施されていますが、制度をつくるだけでなく、その運用面でも大胆に実行されることを望みます。

家庭教育の充実と県民参加の教育について

初めて子育てをする保護者や子育てに悩む若い保護者を積極的に支援すること、幼児期の教育の重要性について提言しました。それを受け、奈良県では全国に先駆けて「親学」に取り組み、「親学サポートブック」の作成と配布、幼保連携を見据えた「奈良県幼児教育推進指針」の策定や、子育て支援ボランティアの組織化などユニークな施策が実施されています。親学サポートブック(乳幼児期編)は毎年保健センター等で3歳児健康診査を受ける子どもの保護者に配布されていますが、平成19年度の活用状況調査によると約6割の保護者が「よく利用、時々利用」と回答しています。中学1年生と小学6年生の子どもの保護者に配布されている親学サポートブック(思春期編)の方は「よく利用、時々利用」との回答が約5割であり、県教育委員会には、積極的に活用を図ってもらう工夫をお願いしたいと思います。

また、近年の教育課題への取組には、学校関係者だけではなく広く県民の参加が必要であるとの考えから「奈良県教育の日」の設定や、子どもの社会性の育成に関しては家庭のみならず企業の皆様に対してもメッセージを発信しました。ゲストティーチャーや学校サポーターとして地域

の人材を導入した学校も、平成19年度には小・中学校では9割強、県立学校でも6割前後に達しています。学生ボランティアによるサポートも始まっていますが、今後、とりわけ教職希望学生のボランティアの積極的な参加を望みます。家庭、学校、教育委員会、企業等の連携についても、一層積極的に展開していただきたいと思います。

3. 奈良県教育へのメッセージ

奈良県の教育改革は一定の成果をあげながら進んでいますが、上述したように、まだまだ課題も多いと考えます。教育懇談会がスタートして8年が経ちますが、旧態依然のまま情報公開が進んでいない学校、授業公開や研修に消極的な姿勢の学校などがまだまだあるように思います。組織というものは、次第に組織維持が優先され、情報がオープンにならず、その結果、組織自体が閉鎖的になり、独りよがりの価値観で運営されてしまいがちです。学校が、そのような状況に陥らないために、関係者と連携し「現状でよいのか」と常に問い直しながら教育活動に取り組んでいただきたいと思います。

また、近年、大人が子どもたちに人として大切なことを十分に伝えきれていない状況があると考えます。基礎・基本となる学力や、自分自身を律する、他人を思いやる、社会規範を守るといった社会生活の基本は、教員をはじめ大人がしっかりと示さなければならないと思います。子どもの個性を尊重することはもとより自明のことですが、子どもに守るべき価値規範の遵守を要求することは避けてはなりません。教育委員会や学校管理職は本来のリーダーシップを発揮して望ましい子どもの姿や一定の価値規範を示すべきと考えます。

子どもは未来をつくる存在です。その意味で、子育てはもっとも公共的な仕事であると言えます。バランスのとれた施設設備の充実や、豊かな感性を育む教育環境を整備することは、未来に対する私たちの責任です。奈良県は、間もなく平城遷都1300年を迎えます。豊かな歴史と伝統、そして世界に誇る文化をもっています。そのような文化的遺産や、豊かな自然と文化的、宗教的風土を土台とした、奈良県らしい教育を今後も一層進めていただくことをお願いしたいと思います。

以上のような認識に立ち、特に今後の奈良県教育への願いを次のようなメッセージとして示します。

メッセージ（教育関係者へ）

各教育委員会及び学校は、今後一層の情報公開、特に事業等の結果報告を進め、外部の意見を積極的に取り入れ、教育の質の改善につとめること。

奈良県の擁する豊かな文化的、宗教的風土を活かし、子どもの健全な心身を育てる教育に積極的に取り組むこと。

子どもたちが自己実現を図るとともに、社会、公共の福祉に貢献する人間となるよう指導につとめること。

教育機会の平等を尊重しつつ、子どもの多様な能力を活かす教育に一層取り組むこと。

教職員の資質向上を図るとともに、教職員や教育関係者間での相互協力関係を一層推進することにより、子どもへの教育力の増進につとめること。

行政は、未来への投資として教育環境の整備を積極的に行うこと。

メッセージ（保護者の皆さんへ）

保護者の在り方が子どもに大きく影響することを自覚し、子どもには幼児期から奈良県の豊かな文化的、宗教的風土に親しませ、基本的なしつけを行い、睡眠時間、食生活等において望ましい生活習慣を身につけさせること。また、子育てを個人で抱え込み過ぎずに教育関係機関や地域のサポートを利用すること。

メッセージ（地域の皆さんへ）

子どもを育てることは未来をつくることであり、地域社会全体の責任である。大人が手本を示すとともに、大人の安定したネットワークが子どもを支えることを自覚し、地域全体で、子どものための教育活動に積極的参加と協力すること。